

海外安全対策情報平成28年度第2四半期（7～9月）

1 社会・治安情勢

- （1）治安の悪化が大きな社会問題となる中、引き続き、現政権は軍と警察の連携を図り、治安の低下が顕著なグアテマラ県を中心に治安回復作戦を進めており、全国の警察官の数を増員し、さらに給与の増額に踏み切るなど、質と量の向上には努めているものの、治安回復上の打開策とはなり得ず、また、犯罪組織同士の抗争も絶えない。
- （2）自動小銃を使用した事件や、犯人が逃げるターゲットを殺害するため、銃を乱射しながら追う事件が発生しており、流れ弾に当たるなどして死傷する場合があるため、路上の通行には注意が必要である。
- （3）対日感情については良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- （1）国家文民警察の発表によると、今年度第2四半期の当国における総犯罪発生件数は8, 118件と前年度第2四半期の8, 033件と比較して微増している。また、殺人件数は1, 186件で前年度第2四半期の1, 212件と比較して微減している。外国人の強盗被害は20件で前年度第2四半期の11件から倍増しており、また、バス強盗は23件で前年度第2四半期の15件から倍増しており、依然として治安回復の兆しは見られない。なお、犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人	1, 186件（前年比	2. 1%減）
傷害	1, 410件（	3. 8%減）
強盗・窃盗	3, 856件（	1. 2%減）
強姦	155件（	24. 0%増）
誘拐	7件（	変化無し）
行方不明	968件（	7. 9%増）
家庭内暴力	536件（	26. 1%増）

（2）銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、第2四半期で治安当局が取り扱った殺人事件1, 186件のうち、銃器を使用した事件は969件（全体の81. 7%）、同じく傷害事件1, 410件のうち銃器を使用した事件は905件（64. 2%）に達する。事件の中には自動小銃が使用されているものもあることから、依然として邦人がこれから銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案
関連情報なし。

(4) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 8月3日朝、誘拐未遂事件発生の情報を得た国家文民警察がグアテマラ市第10区において警戒していたところ、不審車両を発見。車内を調べたところ、自動小銃、拳銃及び国家文民警察制服複数を見。現役警察官等4人が逮捕された。

イ 8月13日午後、日本大使館直近の路上（距離10m）で、バイクに乗った犯人が歩いていた若者らに向け銃を発砲し、2名が殺害された。

ウ 8月26日朝、グアテマラ市第1地区において、刑務所から通院のため病院へ護送されていた囚人が、自動小銃を持っていた複数の犯人に襲撃され、囚人及び刑務官2名が殺害された。さらに、病院に並んでいた市民2名も巻き添えにより死亡した。

エ 9月6日朝、上記襲撃事件を受けて、同第1地区を巡回警備していた国家文民警察車両に、手榴弾（不発）が投げつけられ、その後の捜査により付近の病院から自動小銃が発見される事案が発生した。（往電789号）

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

日本企業内において労働条件等を巡るストライキ、衝突等は発生していないが、引き続き各種運動の動向には注意を要する。また、インターネットの普及により急速にグローバル化が進み、ソーシャルネットワークを使用した予期せぬ示威活動が行われる可能性もあるので注意が必要である。（了）